

平成23年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録

開催日時) 平成23年7月27日(水) 14～16時

開催場所) 倉敷市立自然史博物館地階講義室

協議事項) 平成22年度事業報告について

平成23年度事業について

その他

出席委員(50音順) 榎本敬会長, 河邊誠一郎委員, 木下延子委員, 草地功委員, 佐藤國康委員, 裾分由美子委員, 園田昌司委員, 野瀬重人副会長, 藤原純子委員, 溝手啓子委員, 山地治委員

欠席委員 今川鉄夫委員

事務局 橋本篤男教育次長, 坂田卓司生涯学習部部長, 安原信一郎館長, 江田伸司主幹, 狩山俊悟主幹, 奥島雄一主任, 西井康浩副主任, 武智泰史副主任

傍聴者 なし

マスコミ取材 なし

議事録(要旨)

1 開会

2 開会あいさつ

橋本篤男教育次長

3 委員・職員自己紹介

4 協議

(1) 平成22年度事業報告について

(事務局説明) スライドなどの資料をもとに, 子ども用展示解説書の発行, 第19回特別展「岡山県のレッドデータ生物」の実施, ロータリークラブからの図書寄贈, 大高仮収蔵庫の運

用などを説明。続いて平成22年度決算報告について説明。

会長：質問・意見があればお願いします。

委員：「ダルマガエル観察会」のタイトルについては「ナゴヤダルマガエル観察会」とすべきではないか。

事務局：このことについては県のレッドデータブックを作成するときにもやりとりがあり、標準和名が「ナゴヤダルマガエル」とされたことは承知している。しかし、この観察会を始めた当初は標準和名が「ダルマガエル」であった。それを引き継いでおり、「ダルマガエル」の方が親しみが持てると思われる。

委員：ホームページの管理運営についてはスライドの説明になかったが、その程度の扱いか。倉敷市立自然史博物館友の会のメーリングリストに入れられない状態になっていると聞くが。

事務局：ホームページ等についてもスライドで説明すべきだった。メーリングリストについては友の会が運営しており、博物館では作業できないので、博物館職員が自宅のパソコンでメンテナンスしておく。

委員：メーリングリストはマスコミ各社も取材のため参照しているので重要。メーリングリストの運営についてはアシスタントを活用したらどうか。

事務局：今後検討する。

委員：倉敷市立自然史博物館に関する報道記事をラミネートして一般に見られるようにしたらどうか。

事務局：切抜きを1部しか保存できておらず、永久保管するので、一般公開用にラミネートできない。また、コピーは著作権の問題がある。ただし、目録を作り、それを基に閲覧したい方は図書文献室で閲覧できるようにすることはできる。

(2) 平成23年度事業について

(事務局説明) 年間行事予定表をもとに、特別陳列、自然観察会などについて説明。続いて、第20回特別展「宝石の素顔」、平成23年度予算計画について説明。

会長：質問・意見があればお願いします。

委員：嘱託職員の予算は新たについたものか。

事務局：平成22年度までは教育委員会全体について、教育総務課が人材派遣会社と一括契約し、そこから何人かを自然史博物館で受け入れてきたが、全庁的な流れで、派遣職員から嘱託

職員への切り替えが行われ、各所属で直接、受け入れることとなったため、各所属での予算で対応している。嘱託職員の方が行える業務の幅が広く、学芸業務も行える。

委員：人員が増えているというわけではないのか。

事務局：1人あたりの勤務時間数が減っているなので、単純に増えているというわけではない。

委員：特別展の内容はどのように決められているのか。

事務局：地学、植物、昆虫、動物の総合の内容のものと、各分野の内容のものを、交互に年1回の割合で計画実施している。

委員：岡山大学資源植物科学研究所には重要な標本が多くあるが、これを倉敷市立自然史博物館で展示できないか。

事務局：特別陳列などで展示は可能である。

委員：特別展の予算は、大阪市立自然史博物館や、北九州市立いのちのたび博物館に比べ、倉敷市立自然史博物館ではずっと少ない。北九州の恐竜展には1億円の予算がついていると聞く。倉敷も内容では負けていないと思うが、予算がない分、学芸員の苦勞が多すぎる。予算上も充実できたらよいと思う。

委員：大高仮収蔵庫は空調設備がないので、空調設備のある収蔵庫の新設があればよいと思う。

(3) その他

(事務局説明) スライドなどの資料をもとに、当館の教育普及事業、当館による東日本大震災で被災した標本の修復について説明。

委員：倉敷市立自然史博物館の建物の耐震診断はどうだったか。

事務局：耐震条件はクリアしているとの報告を受けている。

委員：温湿度管理と防虫対策がなされた収蔵庫の新設について募金や署名活動をしてはどうか。

事務局：まずは博物館内で準備したい。

委員：倉敷市立自然史博物館の標本の重要性を広報する必要がある。今回の東日本大震災で被災した標本の修復作業を通じて、市民にアピールしたらどうか。また、佐藤清明氏が、かつて、「岡山県は早くから自然物の標本を集めてそれを収蔵した標本庫があったが、空襲で消失してしまった」と言われていた。耐火性などの危機管理もしっかりしないといけない。

委員：東日本大震災の津波で多くの人が亡くなった。今回の被害で文化財であれば修復費用が出るが、自然物の標本には予算措置はなされない。自然物の標本も修復の予算措置がなされ

ばよいのだが。

委員：自然物の標本については高齢の收藏家が亡くなった後の標本がしばしば寄贈されるようになってきている。今後、その数は飛躍的に増えてくると考えられるので、受け入れ態勢を整えられたい。昆虫標本の管理には、特に空調設備が必要で、空調設備がないと所有者が亡くなって10年も経つと虫害等で駄目になる。

委員：標本を引き継いでいくためには次世代に重要性をわかってもらう必要がある。倉敷市立自然史博物館にも子連れの観覧者のためのオムツを替える場所がほしい。

事務局：当館としても以上のことを考慮していきたい。

5 閉会あいさつ

坂田卓司生涯学習部部長：本日は貴重なご意見をたくさんいただいた。今後、これらのご意見を倉敷市立自然史博物館の運営に活かしていきたい。

6 閉会

(事務局) 協議会終了後、委員を対象とした第20回特別展「宝石の素顔」とミニ展示「東日本大震災で被災した陸前高田市立博物館の植物標本レスキュー」の見学会を行った。

以上の議事録を平成23年7月27日開催の平成23年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録(要旨)とすることに同意します。

平成23年8月3日

倉敷市立自然史博物館協議会

会長 榎本 敬

